



ホタルが元気に成長してくれました！

昨年の11月にビオトープへ放流したヘイケボタルがふ化し、元気に成長してくれました。子どもたちやPTA、地域の方々が力を合わせてビオトープの池に水陸移行帯を作り低木を植樹し、ホタルがふ化できるよう準備を重ねた結果、5月末からヘイケボタルがビオトープの池で、夜にきれいな光を発してくれています。とても嬉しいです。小さな命が引き継がれ、ビオトープに新たな仲間がしっかり根付いてくれました。



学校としては、何とか鑑賞会を実施したかったのですが、新型コロナウイルス感染防止の観点で今年度は見合わせることになりました。しかし、何とか映像で子どもたちや保護者・地域の皆様にお見せしたいと考え、動画の撮影を何度も試みましたが撮影に困難を極めました。右の写真は、刀根山の地域の方が撮影して下さった写真です。成長したホタルの様子がわかっていただけたと思います。来年こそは鑑賞会を実施できればと願っています。

いよいよ5年生の米作りが始まりました

5年生は、総合的な学習の時間で1年間を通して米作りに取り組みます。先日6月8日に田植え体験を行いました。本校の米作り体験は、地域の方々に校内のスペースにたんぼを用意していただき、土と水の管理をしていただくとともに、田植え、稲刈り、脱穀、しめ縄づくり、収穫祭と、1年間を通して出前授業としてもお世話になっています。



さて今回の田植え体験、地域の方もおっしゃっていましたが「最初で最後の体験」になるかもしれない手植えを子どもたちは体験しました。水田の中に入って一言「気持ちいい!!」という発言がたくさん聞かれました。子どもたちの喜びの声に地域の方々も満面の笑みで見守ってくださいました。

6年生出前授業で原爆体験を聞きました

6年生の総合的な学習の時間で、「豊中市原爆被害者の会」から2名の方にお越しいただき、体育館で6年生にお話していただきました。昨今の報道でも取り上げられていますが、現代は被爆体験された方が高齢化し、語り部として若い世代に語り聞かせてくださる方が大変少なくなっています。そのような状況の中で、今回長崎で原爆を体験された方に来ていただき、貴重な体験談を話していただきました。子どもたちは終始静かに聞いており、本や資料では学べない戦争の恐ろしさや悲惨さを学べたことと思います。



校庭開放見守り員の方々のお話

昨年度末から、豊中市の事業として放課後校庭開放がスタートし、毎日たくさん子どもたちが利用して元気いっぱい遊んでくれています。校庭開放には、常時2名の見守り員の方が来てくださっています。見守り員の皆さん子どもたちのことが大好きで、時には一緒に鬼ごっこやかけっこをしながら見守ってくださっています。先日は「子どもたちはみんな私ばかり鬼にしようと狙ってくるので、つかれますわ」とか「かけっこは勝てないなあ」などと満面の笑みで話してくださいました。また、見守り員さんとの会話を楽しみに校庭開放に参加してくれている子どもたちも複数います。このように、地域の方と子どもたちが親しく接する姿を見ると、「地域に見守られている学校」を再認識させられます。ありがたいことです。

教室での水筒の置き場所について

毎日、暑い日が続いております。体育の時間は、運動場や体育館で決められた涼しい場所に水筒を置き、教師の指示でこまめに水分補給の時間を複数回取りながら授業を進めています。教室でも、子どもたちがいつでも水分補給ができるよう指導しています。安全配慮の観点から全クラスで教室の後ろまたは窓側の荷物掛け等、子どもたちが足を引っかけることがない場所にまとめて水筒を置くことにしました。授業中の水分補給はこれまで通り個に応じた対応となりますのでご安心ください。(マナーとして授業中に教師や友だちの話の水筒のお茶等を飲みながら聞くことはいくように指導したいと思います。)